

第13回日本認知症予防学会学術集会

ランチオンセミナー2

認知症の予防と早期介入

2024年 9月27日 (金) 12:30~13:20

第2会場

パシフィコ横浜 ノース

3階 G303

(神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1-2)

座長

浦上 克哉 先生

鳥取大学医学部保健学科

認知症予防学講座 教授

演者

児玉 直樹 先生

新潟医療福祉大学 医療技術学部

診療放射線学科 教授

※本会共催セミナーは整理券制ではございませんので、直接会場へお越しください。  
なお、弁当数に限りがございますので予めご了承ください。



共催：第13回日本認知症予防学会学術集会  
東和薬品株式会社

# 認知症の予防と早期介入

認知症施策推進大綱では、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら、共生と予防を車の両輪として施策を推進していくとされている。運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持等が、認知症の発症を遅らせることができると示唆されており、予防に関するエビデンスの収集・普及とともに、通いの場における活動の推進など、正しい知識と理解に基づいた予防を含めた認知症への備えとしての取組に重点が置かれている。2023年6月14日の認知症予防の日に、認知症の人が希望を持って暮らせるように国や地方自治体の取り組みを定めた認知症基本法が成立した。国には認知症施策の基本計画の策定が義務づけられ、都道府県や市町村には認知症の人や家族などから意見を聞いた上で計画を策定することが努力義務とされた。また国民には、共生社会の実現を推進するために必要な認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深め、共生社会の実現に寄与するよう努めることとされた。また、2023年9月にレカネマブが承認された。レカネマブはアルツハイマー型認知症の原因物質といわれているアミロイドβに結合し、認知症の進行を遅らせる効果が確認されている。日本におけるレカネマブによる治療の対象は「アルツハイマー型認知症による軽度認知障害または軽度の認知症」に限定されており、軽度認知障害を早期にかつ正確に診断することが重要となる。軽度認知障害の診断において、認知機能検査としてMoCA-Jが広く用いられている。しかし、MoCA-Jは実施や評価するのに15分程度の時間がかかり、検査するためには十分なトレーニングが必要である。また、検査の評価にばらつきがあることも問題とされている。検査の評価にばらつきがなく、簡便にかつ短時間に実施可能な軽度認知障害のスクリーニング手法の可能性として認知機能セルフチェッカーがある。認知機能セルフチェッカーでは、認知症群、軽度認知障害群、健常高齢者群の3群において、認知機能セルフチェッカーの合計得点で有意な差が認められた。また、健常高齢者群と軽度認知障害群の合計得点のROC解析により、AUC値は0.86であり、MoCA-Jと同様に良好な結果が示されている。本講演では、認知症予防の取り組み、早期発見と早期介入の必要性、軽度認知障害のスクリーニング手法について概説する。